

チャ品種「ゆめするが」の短期被覆特性

[研究のねらいと取り組み]

2012年に種苗法に基づき品種登録された「ゆめするが」は、色沢や水色で青みのある色と、渋みが少なく誰が淹れてもおいしいと評価されるやや晩生品種である。
今回、品質向上を目的に行われる短期被覆について、「ゆめするが」に処理した場合の収量や品質に及ぼす影響を明らかにした。

[研究の成果]

- ・試験は2022年から2024年の3年間、一番茶と二番茶について実施した。被覆日数は一番茶が10日間、二番茶が7日間で、両茶期とも2.5葉期に被覆を開始した。被覆資材はダイオラッセル85P(遮光率85%、(株)イノベックス製)で、直接被覆した。なお、荒茶品質の調査は2022年と2023年の2年間実施した。
- ・10a当たり生葉収量は、一番茶、二番茶ともに処理した年によって結果は異なったが、概ね被覆により減少する傾向であった(図1)。摘採面当たり生葉収量も同様の傾向であった(データ省略)。
- ・摘芽形質については、被覆により一番茶では出開き度が増加し、摘芽長、百芽重、摘芽数が減少する傾向であった。二番茶では百芽重、摘芽数がやや減少する傾向であった。SPAD値/葉厚は一番茶、二番茶とも被覆により向上した(表1)。
- ・一番茶の荒茶品質は、被覆によりすべての項目で無処理と同等又は向上した。形状は細よれで、色沢は濃緑及びつやがあり、香気にややかぶせ香があったが滋味にうま味があった(図2)。
- ・荒茶の化学成分は、一番茶、二番茶とも被覆により全窒素、遊離アミノ酸、テアニン、カフェインが増加し、繊維、タンニン、カテキン、ビタミンCが減少した。また、被覆により荒茶粉末の明度(L^{*})が低下し、色相角度(h°)が向上した(データ省略)。

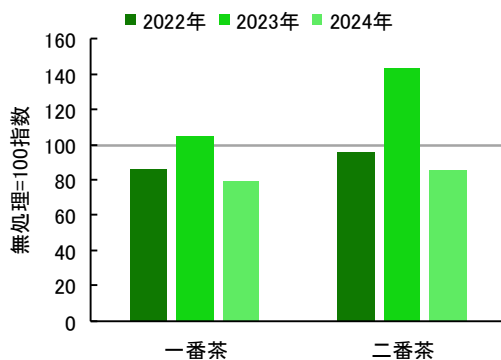


図1 被覆処理が10a当たり生葉収量に及ぼす影響

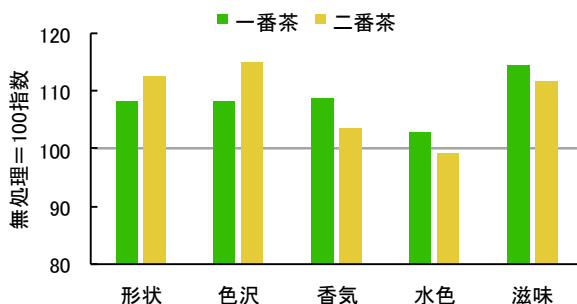


図2 被覆処理が荒茶品質に及ぼす影響(官能評価、2022年と2023年の2か年平均)

表1 被覆処理が摘芽形質及び新芽のSPAD値/葉厚に及ぼす影響(2022年)

茶期	処理	摘芽長 (cm)	摘葉数 (枚)	出開き 度(%)	百芽重 (g)	摘芽数 (本)	SPAD 値 /葉厚
一番茶	被覆	5.2	3.2	61	50.9	55	258
	無処理	6.5	3.1	39	57.9	63	171
二番茶	被覆	2.8	3.2	93	53.1	48	226
	無処理	2.4	2.9	95	53.5	50	173

枠: 20cm × 20cm



写真1 被覆処理が葉色に及ぼす影響(2022年)

手前: 被覆処理、奥: 無処理